

ベストプラクティス企業への訪問・意見交換

長野労働局（局長 三浦栄一郎）は、「過重労働解消キャンペーン」の一環として、11月22日（金）、働き方改革を促進し「物流における2024年問題の解消」に向けて積極的に取り組む企業（ベストプラクティス企業）への職場訪問を実施しました。

今回は、下記2社を訪問し、各代表取締役様等から、荷待ち時間の削減等に向けて、荷主・運送業者一体となった取組について説明いただきました。（訪問には、「国土交通省北陸信越運輸局長野運輸支局長」「公益社団法人長野県トラック協会長」も同行しました。）

（社員数はいずれも2024年9月30日時点）

（1）＜運送会社＞

企業名	信州名鉄運輸 株式会社
所在地	本社 松本市（佐久支店）小諸市大字和田字古屋敷 464-2
業種	貨物自動車運送業
社員数	904名

（2）＜荷主＞

企業名	株式会社 ヤッホーブルーイング
所在地	本社 軽井沢町（物流センター）佐久市長土呂 64-6
業種	クラフトビール製造・販売
社員数	223名

訪問日	令和6年11月22日
訪問者	長野労働局 局長 三浦栄一郎、監督課長 森 孝行 荷主特別対策担当官 岩國 眞一郎 長野運輸支局長 山岸忠政
面接者 （敬称略）	（1）代表取締役 <small>みすたに</small> 水谷 <small>ありよし</small> 有吉 （2）代表取締役 <small>いで</small> 井手 <small>なおゆき</small> 直行 公益社団法人長野県トラック協会 <small>こいけ</small> 小池 <small>ながし</small> 長

選定対象2社長



(左から 信州名鉄運輸水谷社長、ヤッホーブルーイング 井手社長)

【企業側（2社）からの説明】



<ヤッホーブルーイング>

- ・2024年問題解消は、荷主からも対策を講じなければならない。
- ・着荷主の意識改革、理解、共感が必要。
- ・単純な願いは難しいので、製品改良などの努力も必要。



<信州名鉄運輸>

荷主から、2024年問題解消の提案があり、「荷物を届けてもらわないといけない」と考えてもらっており、その意識が高い点がとてもありがたかった。

【両社一体となった主な取組例】

荷主 ヤッホーブルーイング

運送業 物流会社 信州名鉄運輸

役割：

サプライチェーン全体最適化、着荷主との調整。
受注、出荷指示。

役割：

安定した輸配送の構築。

配車手配、荷役・倉庫管理、配送。

改善・取り組み事例

1. リードタイムを延長し余裕を持った運行を推進
2. 受注締切時間前に受注状況を共有し待機時間を削減
3. ヤッホーブルーイング倉庫移転

【上記3つの取組により得られる改善効果】

改善効果(年間)	改善前	改善後
輸送距離	10,560km	2,520km
移動時間	320時間	100時間
待機時間	240時間	0時間

- 年間輸送距離8,040km、移動・待機時間計460時間の削減
- 上田・佐久支店の2支店体制が佐久支店1支店に集約された





ベストプラクティス企業選定証授与後

(左から 信州名鉄運輸 水谷様、長野労働局長、ヤッホーブルーイング 井手様
長野運輸支局長)

【三浦局長からの講評】

トラックドライバーの時間外労働の上限が960時間とされることに伴い、輸送能力が低下し物流の停滞が懸念される。その解決手段としては、

- ① ドライバーの増員による総作業時間の確保
- ② いわゆる手待ち・待機時間の削減による実作業時間の確保
- ③ 輸送の効率化による運送量の確保

があり、今回の三社の取組は②に資するもので、荷主・運送業者が一体で「リードタイムの延長」、「運送距離、作業の効率化」、「荷待ち時間の短縮の取組」に積極的に取り組んでおられる点を高く評価した。

労働行政としても、労働災害ゼロはもちろんのこと、引き続き荷主要請等関係業界への協力が不可欠として、更なる努力をしていきたい。